

令和5年度の重点

子供が目標達成する授業，子供が主役の授業へ ～個別×協働×ICT～

令和3年1月中央教育審議会答申で示された「令和の日本型学校教育」において，全ての子供たちの可能性を引き出し，一人一人の子供を主語とする学校教育の実現に向けて，「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められています。

小松教育事務所は令和5年度も「子供が目標達成する授業，子供が主役の授業」を掲げ，教師主導ではなく，子供たちが学習の主体者となり，確実に資質・能力を身に付ける授業を目指します。

新しい時代における子供たちの学びのスタイル「個別最適な学び」「協働的な学び」を実現していくためには，私たち教師の意識の変革が求められています。これまで以上に子供を主役にするために，子供自身が学習内容や学習形態を選択する学びの実現に向けてチャレンジしていきましょう。

子供が目標達成・子供が主役の授業の実現

資質・能力の育成

各教科で育成を目指す資質・能力
言語能力
情報活用能力
問題発見・解決能力等の教科横断的な視点
に立った資質・能力の育成等

主体的・対話的で深い学び

学びのスタイル

一体的に充実

個別最適な学び

子供が学習内容や学習形態を選択する
自己調整しながら学習を進める

- 指導の個別化
- 学習の個性化

多様な一人一人が
より大事にされる学び

往
還

協働的な学び

多様な他者と協働し，
よりよい学びを生み出す



必要に応じて
協力し
教え合う学び

ICT活用



日常的

効果的



ICT活用はみんながいつでも ICT活用は意図的に

安定的な学級経営

何でも言い合える仲間

安全・安心な風土の醸成

個別最適な学び

指導の個別化

子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ
教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う



それぞれの方法で
目標を達成



児童生徒に合わせた
内容を提示
児童生徒が選択できる
指導の環境を作る

学習の個性化

個々の児童生徒の興味・関心・キャリア形成の方向等に応じ
教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う



自ら学習課題や
学習活動を選択

どのような方向性で
学習を進めていった
らよいかを考える

自分に合った
アウトプットの
方法で表現

協働的な学び

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する
多様な他者と共に問題の発見や解決に挑む

共同で作成・編集等を行う
活動、多様な意見を共有し
つつ、合意形成を図る活動
等に活用

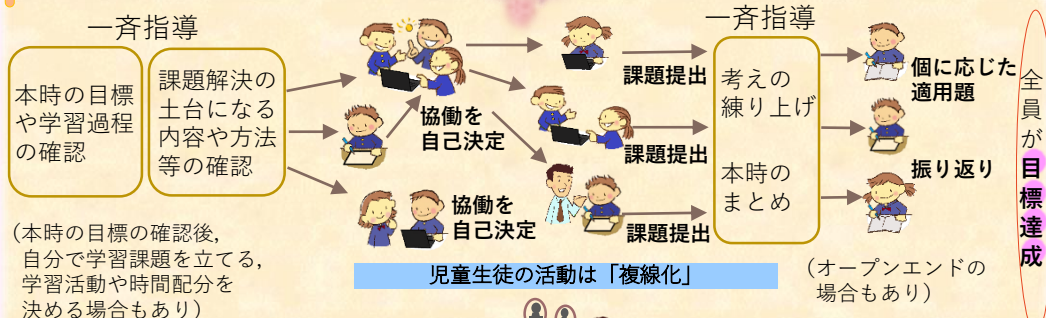
子供同士等が学び合う
ことができる活動を設定

個別×協働×ICTの授業スタイルの一例

例えば



授業イメージの一例



ポイント

◆子供自身が判断・選択

◆インプットとアウトプットを繰り返す

- ・学習課題や学習過程, 学習形態
- ・協働の相手やタイミング
- ・端末活用のタイミング

誰一人取り残さず、
子供のよさや可能性
を引き出す授業にな
るといいね。

☆「教師がどう教えるか」とどまらず、「子供がどのように学ぶか」という視点から授業づくりをすることがポイントです。